

環境シンポジウム開催

住宅部会環境分科会では、去る 11 月 17 日(木)、住宅金融支援機構のすまい・るホールにおいて「2011 環境シンポジウム」を開催いたしました。

協会では、低炭素社会の実現に向け、2001 年度から 2010 年度を計画期間とする環境行動計画「エコアクション 21」に基づき、住宅の生産・供給における総合的な省エネルギー化などの取り組みを推進してきましたが、今回のシンポジウムでは、「エコアクション 21」の 10 年間にわたる活動成果の総括を報告すると共に、今後、実践すべき環境への取り組みをまとめた次期環境行動計画「エコアクション 2020」の発表を行いました。

<基調講演>

『スマートコミュニティの現状と将来展望』

独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) 理事 渡邊 宏 氏

今後の住宅や街づくりにおいては、創エネルギー・省エネルギー・蓄エネルギーの更なる推進とエネルギーの効率的な利用を可能にするスマートグリッドやスマートコミュニティ等の取り組みが重要な課題になってきます。講演では「エネルギー・環境制約と経済発展」、そして「住まいとコミュニティ」、さらに「将来展望とその課題」という構成で、具体的事例とともに「スマートコミュニティが開く未来」について考える。

(資料) [スマートコミュニティの現状と将来展望](#)

<「エコアクション 21」2010 年度実績・2001～2010 年度総括>

(資料) [環境 2010 実績・10 年総括](#)

<次期環境行動計画「エコアクション 2020」概要>

(資料) [エコアクション 2020](#)

<各社 事例報告>

積水化学工業(株)

「セキスイハイムのスマートハウス (スマートハイム)」

積水ハウス(株)

「グリーンファースト ハイブリッド」

大和ハウス工業(株)

「xevo スマ・エコ オリジナル」

ミサワホーム(株)

「エコフラッグシップモデル (LCCO2 マイナスモデル)」